

小学校での支援活動に向けて

読み聞かせ・工作教室 を実施しました



教育創造コース1年生は、9月に附属坂出小学校を訪問し、簡単な工作教室（支援活動）をさせてもらうことになっています。

この活動に向けて、7月15日に香川県読み聞かせアドバイザーの青井先生と図書館ボランティア「図書館うさぎ」で活躍されている古村先生をお招きし、「絵本の読み聞かせ」と「簡単な工作」についての授業をしていただきました。

最初に、先生方が、絵本の効果的な読み聞かせの仕方を実演して下さい、その後、生徒たちは、相互に「効果的な読み聞かせ」を試してみました。

同じ絵本でも、誰が、どのような解釈で、どのように「読み聞かせ」をするかで、聴き手にとって、全く違うものになることが分かりました。



後半の授業では、小学生にも紹介できる工作の実習をしました。

古村先生は、紙皿や紙コップ、軍手やマスキングテープなどをセットにした「おもちゃ作成キット」を一人ひとりの生徒に準備して下さい、生徒は自分たちが小学校に支援活動に行く際には、このようにキットの形で用意すれば、自分にとっても、相手にとっても効率的であることが体験的によく分かったと思います。

紙皿の独楽や紙コップのけん玉、ミニ団扇、軍手を使った指人形、紙粘土を使ったアイスクリームの模型、スノードームなど、時間の許す限り、どんどん作成していきました。同じものを作っても、色を塗ったり、シールを貼ることでオリジナリティを出せるし、独楽や団扇などは、動かすスピードによっては描いたイラストをアニメーションのように動かすことができることも分かり、生徒は、創意工夫して工作することの大切さを実感しました。



青井先生と古村先生が、熱心に、そして心から楽しんで「読み聞かせ」と「工作」を実践・披露して下さいる姿に、生徒は「自分たちも、支援活動をするときには『まず、堂々と楽しむ姿勢を示す』ことが大切なのだ」ということを大いに実感したと思います。

青井先生、古村先生、今日は本当に大切なことを学びました。どうもありがとうございました。